

努力は報われる

志津小学校長 辻 太久郎

2月24、25日に「6年生ありがとうの会」が開催されました。1年生は「鬼滅の刃」主題歌の歌声と感謝のメッセージ、2年生は6年生がどんな中学生になるかの占い、3年生は楽器演奏、4年生は一人ひとりから感謝の言葉、と趣向を凝らしたビデオメッセージで6年生への感謝を伝えました。5年生は会を企画・運営し、6年生のために楽しい時間を演出しました。各学年からの感謝の言葉を聞いていると、6年生がいかに後輩たちを支えてくれたのかがわかります。常に志津小学校のリーダーとして、後輩たちを守り、引っ張ってきました。最上級生としてのその自覚と使命感には、本当に頭が下がる思いです。私も心から感謝しています。

一方、6年生は12歳と言う多感な時期、自分の勉強も大事、スポーツや習い事、趣味にも力を入れたい、中学進学に向けての準備も必要、だから後輩の面倒どころではない、自分のことで精一杯だという面もあるかもしれません。しかし、自分のために精一杯努力するその姿でさえ、後輩の目標であり、憧れであり、生きた教科書とも言えるのです。

北京冬季五輪、フィギュアスケートで4位に終わった羽生結弦選手は、その後のインタビューで「報われない努力だった・・・かもしれないけれど、一生懸命頑張りました」と声を詰まらせていました。これ以上努力のしようがないほど努力した羽生選手だけに許される言葉だったと思います。羽生選手のこのコメントをスタジオで聞いていた織田信成氏は「結弦の姿を見てたくさんの人が夢と勇気をもたらした。だから、絶対努力は無駄じゃない。」と励ましていました。

6年生も、志津小学校での6年間、努力が報われなかったことがあったと思いますし、これからもそのような経験をするかもしれません。しかし、努力する姿を間近で見てきた後輩や同級生は、その姿にプラスの影響を受けたはずです。また、努力する過程で手に入れた「努力する能力」は、何にも代えがたい一生の宝となります。無駄な努力は無いと断言できる所以です。

今、高等教育界に旋風を巻き起こしているミネルバ大学をご存じでしょうか。オンラインで授業を受講する全寮制の4年制総合大学です。超難関校であり、世界で最も優秀な学生を集めています。このミネルバ大学に入学するための条件は何か、という問いに対し、創設者のベン・ネルソン氏はこう答えていました。「高校の成績が良いこと。高校での学習は決して質の良いものばかりではないし、退屈なものも多い。そんな一見無意味なものに対してさえ、努力する姿勢が高校の成績として表れる。人生は退屈な挑戦に満ち溢れている。すぐには成果が得られなくても、努力を惜しまない学生を我が校は必要としている。」世界最高レベルの大学が、「努力する能力」そのものに、価値を置いているのです。

努力の末に得るものは、それだけではありません。ほぼ全てのアスリートは、その試合結果の良し悪しに関係なく、これまでの応援者、支援者、関係者へ感謝の言葉を述べています。努力の過程で得た人との出会いや繋がり、これもまた、努力しなければ得ることのできなかった一生の宝物です。

「6年生ありがとうの会」では、後輩たちから手作りのメダルバッジやしおり、顔写真付き団扇、感謝状が、オリジナル手作り紙袋に入れられ、一人一人に手渡されました。その感謝状にはこのように書かれてありました。「あなたがいてくれてよかった／あなたと会えてうれしかった／かっこいいってどういうことなのか／6年生ってどんな人のことなのか／あなたが教えてくれたことを／これからもずっとつないでいきます／心からありがとうございました。」

授業参観の中止について

マチコミメールにて実施延期をお知らせしていた授業参観ですが、佐倉市内における新型コロナウイルスの感染状況は、いまだ、予断を許さない環境が続いております。

これらの状況から、子ども達と保護者の皆様への感染拡大を防ぐため、本年度の授業参観は、中止とします。

授業参観を楽しみにされていた保護者の皆様方には、本当に申し訳なく思っています。学校としても、皆様方に、

実際に学校生活の様子を見ていただきたい。という思いを、職員一同ずっと持ち続けております。

来年度においては、感染状況を見極めながら、授業や学校行事を参観する機会を模索してまいります。